

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22510275

研究課題名（和文） トルコ諸都市におけるセンター領域の空間形態と特性に関する研究

研究課題名（英文） A Study on the Spatial Characteristics of Urban Centers in Turkey

研究代表者

鶴田 佳子 (TSURUTA YOSHIKO)

昭和女子大学・生活機構研究科・准教授

研究者番号：10241043

研究成果の概要（和文）：本研究ではセンター領域を対象とし、現地調査に基づきトルコ諸都市の地域的な特性について捉えることを研究目的とする。アナトリア西部 21 都市において実施した調査から新旧のセンター領域をつなぐ役割を果たす屋外空間の機能と交流空間の形態的な特性を見出し、広場及び主要軸となる街路空間の重要性と多様な空間活用を確認することができた。また、トルコ都市市場紹介サイトにて調査地の都市情報を日本語とトルコ語で公開している。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate the spatial characteristics of urban centers in Turkish cities. On the basis of spatial examination of urban centers in 21 cities of Western Anatolia region, we drew the drafts of the central commercial areas of 21 cities. The author analyzed the spatial characteristics of plazas, streets and courtyards as well as observing how and in what manner they have been used. The following conclusions were drawn from the observations and analysis: plazas and main roads connect traditional commercial areas to new town centers. From the drafts and collected materials, we created the database of the cities, and released the public information on the Website, City and Bazaar Information in Turkey, in Japanese and Turkish.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：①都市 ②空間形態 ③トルコ ④センター領域 ⑤現地調査

### 1. 研究開始当初の背景

トルコ諸都市における都市のセンター領域には、トルコ語でチャルシュと呼ばれる市場空間が広がっている。このチャルシュの空間構成及び歴史的な商業施設について、文献及び現地調査から継続的に研究を進めてき

ており、同時にチャルシュと比較する対象として、イスラーム地域ではモロッコとシリアの都市においてスークと呼ばれる市場空間を、ヨーロッパ諸都市においては市場広場を選定し、現地調査を実施してきた。

本研究に関する国内外の研究動向をみる

と、モスクや隊商宿などの歴史建造物単体を扱う研究やサフランボルをはじめとする伝統的民家に関する研究、広くイスラーム地域を対象とした都市研究等がみられる。しかし、トルコ共和国内の都市を対象に市場空間や都市構造を分析するものは少なく、センター領域を面的に捉え、その内部構造と都市全体における位置づけ双方を分析するものはみられない。特にイスタンブルをはじめとする大都市は近年、急速に発展、拡張しているため、現状を記録、分析することに本研究の意義がある。

このような研究背景及び動向を踏まえ、2007年度から2009年度にかけて採択された基盤研究(C)「トルコにおける都市構造と市場空間の活用に関する研究」において、歴史的な交易都市を研究対象とし、市場空間の位置づけと内部構造、都市の活用について調査・分析し、都市別のデータベースを整備してきた。西部アナトリア地域 18 都市の市場空間を対象に常設の商業エリアと仮設の露天市の立地及び形態、機能について分析し、Web上では日本語とトルコ語で情報公開を行うことができた。ここで築いた現地協力者との連携体制をベースに、各都市において市場空間から新市街へと拡張するセンター領域全体へ研究対象エリアを発展させると共に、都市形態の特性を捉える必要性を見出したことから本研究の着想に至った。

## 2. 研究の目的

2007-2009 年度に行った「トルコにおける都市構造と市場空間の活用に関する研究」での研究成果を発展させ、本研究では伝統的な市場空間とあわせて新市街を分析対象に加える。トルコ諸都市の地域的な特性についてセンター領域の空間形態から捉えることを研究の第一目的とする。また、研究成果を今後のまちづくりや活性化に役立つデータとするために Web 上で情報発信を行うことが本研究の第二の目的であり、図面、写真等、調査成果を公開し、調査を実施したトルコ諸都市のみならず、国内外の都市センター領域の活性化に役立つデータ整備、公開に努める。

## 3. 研究の方法

トルコ諸都市について現状調査及び文献資料の収集、研究関連機関での情報収集を実施し、収集データに基づき、センター領域の空間形態にみる特性を分析する。

### (1) 現地調査

トルコ都市空間調査を夏季(8月後半から9月前半)3週間、春季(3月後半)1週間程度、毎年実施し、3年間で調査エリアを分け、同時に季節による変化も記録する。調査対象都市は、都市の歴史、立地、街並みの保存や整備活動の状況など事前に入手できる各都市

の公式サイトや文献資料から決定する。2009年度までの研究対象 18 都市を基盤とし、対象地域を拡充する方向で都市の規模等も考慮した上で調査都市を増やし、データの充実を図る。研究期間となる3年間は夏季調査期間が一部、イスラーム教徒の断食期間と重なるため、断食期間と断食明けの日程を確認し、日常と非日常の都市の活用状況双方を調査する。調査内容はセンター領域の空間形態、施設の有無、施設及び屋外空間の機能、活用状況等の把握である。

### (2) 文献資料の収集およびヒヤリング等

文献資料はイスタンブルの書店及び各都市での行政機関、博物館等の文化・研究施設において建築及び都市、歴史に関するものを収集する。また、行政機関においては地図データ及び都市整備に関する情報の提供を依頼し、センター領域では住民や商業施設の店主等にヒヤリングを行う。

### (3) 研究体制

全体の企画及び最終的な統括は研究代表者が行うが、現地調査及び入手資料の整理、データ化については人手が必要であるため、調査スタッフ及び現地協力者の力が欠かせない。現地協力者として、調査対象となる各都市の行政機関の都市整備部門及び治安管理部门、小売商組合、イスタンブル工科大学、ÇEKÜL (The Foundation for the Promotion and Protection of the Environment and Cultural Heritage)、各都市の博物館等に所属する研究者を想定しており、2009年度までの研究成果として、ある程度の連携体制は確保されている。新たな都市での研究ネットワークづくりも本研究の課題である。現地協力者の情報提供及び調査協力により、現地調査が成り立ち、その成果としてまとめた図面等のデータを公開し、さらに意見交換することで該当都市の今後の活性化へ役立つデータとなるよう連携体制をつくりあげる予定である。

### (4) データベース化

現地調査及び収集資料に基づき、都市ごとに空間形態の特色をまとめ、都市図及びセンター領域図を作図し、データベースにまとめる。本データベースの多様な活用を目的に2009年度までに独自のサイト「トルコ都市・市場紹介サイト」を開設し、日本語とトルコ語で公開、整備している。このサイトを基盤に、本研究の成果による新たなデータを追加することで充実を図る。

## 4. 研究成果

現地での現状を把握すべく計6回のトルコ都市空間調査を実施し、西部アナトリアの4地域(マルマラ海地域、エーゲ海地域、地中海地域、黒海地域)、21都市(イスタンブル、エディルネ、ブルサ、タラクル、イズミール、

チェシュメ、アラチャト、クシャダス、セルチュク、シリンジエ、オデミッシュ、ビルギ、ショケ、ボドルム、マルマリス、ムーラ、ウスパルタ、エレーリ、アンタルヤ、ギョイヌック、サフランボル)にて調査した。2009年度までの調査都市とあわせ、都市ごとの特色を比較分析するとともにデータベース化の作業を進めた。各都市の情報は「トルコ都市・市場紹介サイト」にて日本語及びトルコ語でのWeb公開を行っている。

#### (1)トルコ都市空間調査の実施

第1回都市空間調査(2010年8月16日～9月7日実施)では、エーゲ海沿岸都市のマルマリス、ムーラとエディルネを新たな対象として捉え、内陸部の継続調査都市と共にセンター領域の構成及び現状を記録し、文献資料を収集した。黒海沿岸地域のサフランボルにおいては、断食期間とも重なったため、宗教行為と都市空間との関連性を調査した。

第2回調査(2011年3月18日～3月27日実施)では、イスタンブル、エディルネ、クシャダスを訪問し、第1回調査の補完及び2011年度夏に実施予定の第3回調査の準備を行った。

第3回都市空間調査(2011年8月21日～9月10日実施)では、第1回調査に続き、8月の断食期間中は断食の影響が少ないエーゲ海沿岸のリゾート都市を主たる対象として、ボドルム、クシャダス、セルチュク、シリンジエ、チェシュメ、イズミールのセンター領域の空間形態を調査し、行政機関では都市計画の取り組みに対する情報収集と資料収集を行った。断食明けの祭りである砂糖祭(2011年は8月29日の午後から9月1日まで)では、アナトリア内陸部のギョイヌックとタラクルにおいて祭りでの都市の変化を調査した。

第4回調査(2012年3月18日～3月26日実施)では、イスタンブルを訪問し、中心部の六区において区ごとの中心エリアを対象に歩行者専有空間の形態を調査した。

第5回都市空間調査(2012年8月15日～9月5日実施)では、エーゲ海沿岸および地中海沿岸地域の都市を主たる対象として、ウスパルタ、エレーリ、アンタルヤ、ショケ、アラチャト、オデミッシュ、ビルギ、イズミールのセンター領域の空間形態を調査し、行政機関では都市計画の取り組みに対する情報・資料収集を行った。

第6回調査(2013年3月19日～3月24日実施)では、イスタンブルの中心エリアを対象に歩行者専有空間の形態について補完調査を実施した。

現地研究協力機関として各行政機関の他、イスタンブル工科大学、イスタンブル小売商管理組合、CEKÜLがあり、調査時に訪問し、意見交換及び資料収集を実施した。

#### (2)センター領域の概念と都市構成の把握

都市構成の観点からセンター領域について、現地調査後、図面の整備が完了している18都市を対象にセンター領域の概念と空間構成について考察した。

都市のセンターには主要な都市施設が位置し、行政、商業、宗教、文化、交通など多様な都市機能を兼ね備えている。トルコの都市においてはチャルシュと呼ばれる商業空間が都市の中心的な役割を担ってきたが、現代の都市をみると、チャルシュだけでなく、新市街も多様な機能を持ち合わせている。センター領域の空間形態は伝統的な施設・空間を維持する部分と新たに開発された部分の両方が存在し、都市の発展とともに変化し続けている。

チャルシュと新市街、主要諸施設、空間との関連性から18都市を分類すると、分離型(1事例)、拡張型(6事例)、隣接型(6事例)、融合型(4事例)、分散型(1事例)の5タイプに整理できる。分散型を除く4タイプ17事例においてチャルシュが核的な役割を果たしている。伝統的な市場空間であるチャルシュが都市のセンター機能を現在まで維持してきたのは、伝統を守るだけでなく新しい要素を取り入れ、開発されてきた点が特徴として挙げられる。市場施設や公衆浴場(ハマム)など歴史建造物が修復、再生され、新たな商業空間として活用されることで伝統的な空間の継承がなされている。また、チャルシュも新市街も領域が曖昧な点で共通し、この2つのエリアを広場の整備によって違和感なくつなぎ、緩衝空間の活用も特徴の一つとして抽出できた。

#### (3)センター領域の交流空間としての特色

都市のセンター領域における人々の交流空間として、日常的な交流から不特定多数の人々が一堂に会す祭りなどの非日常的な交流に至るまで、現地調査及び文献資料から交流内容と空間形態の特徴を整理する。

日常的な交流の場は至る所にあるものの常に機能している場として、伝統的商業施設と喫茶店であるチャイハネ、床屋が挙げられる。伝統的商業施設は観光客の利用も多く、男女を問わず活用されているが、チャルシュ内に位置するチャイハネと床屋はチャルシュ内の働き手のほとんどが男性であるため、男性のコミュニケーションの場となっている。

非日常的な交流空間は、イベント開催時や宗教的な行事に関連して発生する。宗教的なものに関しては宗教施設そのものも多くの人を集めるが、周辺の広場にはテントや露店が並ぶなど非日常的な要素が加味され、期間限定の交流空間が発生する。イスタンブルやイズミールなどの大都市では施設や広場の他に歩行者専有空間の整備が進んでおり、セ

ンター領域における交流スペースが確保されている。定期的なイベントや行事以外にもデモや集会などの会場としてセンター領域に位置する広場や歩行者専用空間は活用されており、場所そのものがシンボリックな要素も兼ね備えている。歩行者専用空間は日常的な交流の場としても機能しているが、居住地域と比較すると周辺には多様な商業施設や娯楽施設があり、空間を埋め尽くしている人々も含め、非日常的な賑わいは晴れやかな様相を呈している。保存・修復された歴史建造物や統一感のあるファサードなど、街並みによっても特色ある晴れやかな空間が演出されている。

#### (4) センター領域における屋外空間の特性

センター領域において多くの人を集める場として広場、街路、敷地内オープンスペースの3つの形態を有する屋外空間が活用されている。多様な活用がなされる屋外空間は交通機能、市場機能、イベント機能、公園機能等を有し、特に広場と歩行者専用空間としての主要街路が連続することで屋外空間がセンター領域の核的な役割を果たす事例も複数みられる。

チャルシュ内及び主要幹線の街路や広場沿いには商業施設が立ち並び、屋外空間は商業活動の影響を受ける。屋外空間自体に露店が並び、市場機能を有する場合や交通機能を果たす場合がみられる。また、周辺環境の影響は、水辺や高台、屋上テラスなどの屋外空間に顕著である。都市景観や自然景観などを眺めるために屋外空間に惹きつけられ、滞在する。ベンチやオープンカフェは滞在を促す装置として機能している。

大都市はセンター領域が広く、複数の核的なエリアの集合体である。そのため、屋外空間が複数の核を結ぶ役割を果たし、交通の要所に広場が設けられ、幹線道路がつないでいる。イスタンブールは多核、複合的な都市構造を有し、他の大都市においてもセンター領域は新市街の発展と共に広がりをみせている。いずれの空間活用も多様であり、日常から非日常まで幅広く利用されている。

#### (5) ホームページの公開

2009年度までに構築したデータベースをもとにWeb公開している「トルコ都市・市場紹介サイト」(<http://www.turkish-city.jp/>)の情報の追加及び校正を行い、公開情報の充実に継続して努めている。トルコ諸都市に関する日本語の情報は乏しく、また、トルコ国内においても小都市に関する情報は少ないため、本研究成果の日本語とトルコ語2言語での公開は研究者のみならず幅広く役立つものになると考えている。

#### (6) 今後の課題と展望

本研究を通して、6回にわたるトルコ都市空間調査、計21都市のデータを収集するこ

とができたが、調査後の図面化作業に時間を要し、データのWeb公開が不十分である。今後も継続してデータの補完を行い、充実したサイトへと整備を進める。調査地は結果的に西アナトリアに集中したため、今後は社会的な背景も考慮しつつ、研究対象地域を拡張していく予定である。気候風土及び文化的な背景の異なる都市事例を取り上げることでトルコ全域の特性、また、地域毎の特性を明らかにすることが今後の課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 鶴田佳子、トルコ諸都市のセンター領域における屋外空間の特性に関する考察、昭和女子大学学苑・人間社会学部紀要、査読有、No.868、2013、pp.35-46

② 鶴田佳子、トルコ諸都市のセンター領域における交流空間に関する考察、昭和女子大学学苑・人間社会学部紀要、査読有、No. 856、2012、pp.15-27

③ 鶴田佳子、トルコ諸都市のセンター領域と市場空間に関する基礎的考察、昭和女子大学学苑・人間社会学部紀要、査読有、No.844、2011、pp.10-24

[図書] (計1件)

鶴田佳子、トルコ地方都市における女性のコミュニティ空間の形態、昭和女子大学女性文化研究叢書 第八集 女性と情報、御茶の水書房、2012、pp.141-146

[その他] ホームページ公開

サイト名：トルコ都市・市場紹介サイト

URL：<http://www.turkish-city.jp/>

トルコ語名：Türkiye’de Kentler, Çarşılar ve Pazarlar

英語名：City and Bazaar Information in Turkey

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

鶴田佳子 (TSURUTA YOSHIKO)

昭和女子大学・生活機構研究科・准教授

研究者番号：10241043

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし